

# 鷲羽岳&水晶岳&笠ヶ岳山行報告

【山行日】2016年 8月 4(木)~7(日)

【集 合】岩舟支所 AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 37,000円

【メンバー】 CL:鈴木、石川、岩淵、香川、  
大西、関

8月4日(木) 新穂高温泉からわさび平小屋・鏡平山荘を經由し双六小屋へ

岩舟支所 3:00=新穂高温泉 P7:007:30~

わさび平小屋 8:40/8:55~シシウドガ原

11:50/12:30~鏡平山荘 13:10/13:30~

弓折分岐 14:40~双六小屋 15:50:



夏山アルプス山行第2弾は、鷲羽岳・水晶岳・笠ヶ岳の北アルプス最深部の周遊コースにした。新穂高温泉の登山者用駐車場に着くとすでに満車で置けなかった。



ビジターセンターでトイレを済ませ、隣接する登山者指導センターに登山届を提出し、橋を渡った奥にある有料駐車場に車を止めた。

ストレッチを済ませて出発し、林道を北へ向かって登って行く。ホテルニューホタカの先にゲートがあり、ここから先は一般車通行止めで道も砂利道に変わる。左手に笠ヶ岳を眺めながら、左俣沢左岸を緩やかに登って行く。橋を渡って右岸に出ると、左手に笠新道の登山口があり小さな水場もある。ここから10分程進むと、樹林の

中にワサビ平小屋が現れる。小休止してトイレを借り、衣服調整をして出発する。ブナの樹林を抜け、下抜戸沢を過ぎると橋に出る。橋の手前で左に折れて、小池新道に入り鏡平に向かう。

石を階段状に積んだ登山道は歩き易く、I 淵さんは「すっごく歩き易くていい道だね」とご機嫌で歩いていた。灌木帯の登りが始まり、日差しを受けて風も無く蒸し暑い。

秩父沢を丸木橋で渡り、すぐに秩父小沢を渡る。ここは水場になっており、大勢の登山者が休憩していた。我々もすぐ先の日陰で休憩し、果物を食べて水分を補給する。登山道はしだいに傾斜をまし、灌木帯を抜けるとイタドリ原に出る。ここら辺から O 嬢が体調不良を訴え、一人で下山すると言い出した。この上のシシウドガ原で昼食休憩をとるから、そこまで頑張るように言って4人に先行してもらおう。何回か休憩をとりながらシシウドガ原に着き、昼食のラーメンを食べるが、O 嬢





の体調は回復しない。

ここからなら何回か来ているので、一人で帰れると言うので、分かれて家まで帰ることにした。昼食を食べる頃から雲行きが怪しくなり、鏡平の手前から小雨が降り出した。レインウエアーの上衣を着て、鏡沢沿いに登ると大小の池が点在する鏡平に出る。池畔に鏡平小屋が建ち、小屋の軒先を借りて雨宿りする。トイレを借り、I 淵さんが買ったかき氷を3口分けてもらったがとても美味しかった。小屋から弓折分岐までは急登になり、中間点あたりで雨脚が強くなりレインウエ

アーのズボンも履いた。雨の中頑張つて登ると分岐に着き、双六小屋への稜線に出た。ここまで登ればあとわずか、眺望の無い尾根をひたすら歩いて行く。雪田花見平は雪が無く裸地化してお花畑も無くなっていた。くろゆりベンチまで来ると、雨も小降りになり休憩して水分を補給する。稜線を登下降し、2622mピークを過ぎると左に折れ、ハイマツ帯を巻きながら双六小屋へと下る。雨もほとんど上がり、正面に双六小屋が見えてきたが中々着かない。キャンプ場を抜け、診療所の脇を登ると双六小屋の前に出た。小屋で受付を済ませ、部屋に案内してもらおう。8人部屋を6人の我々だけでOKと言われ超ラッキー。濡れた衣服や、レインウエアーを乾燥室に干し落ち着いたら外に出て小宴会を始める。雨も上がり、正面に鷲羽岳を見ながら1杯1000円の生ビールは身に染みわたり疲れを吹き飛ばしてくれた。夕食まで宴は続き、夕食に何を食べたのか全く覚えてなかった。



**8月5日(金) 双六小屋から三俣山荘経由し、鷲羽岳・水晶岳に登り黒部源流から三俣山荘へ**

**双六小屋 5:00～三俣山荘 7:40/8:00～鷲羽岳 9:20/9:30～ワリモ岳北分岐 9:50～水晶小屋 11:00/11:40～水晶岳 12:20/12:40～水晶小屋 13:15/13:30～岩苔乗越 14:10～黒部源流 15:00～三俣山荘 15:40**

さあ今日から二日間は、今回の山行の核心部を歩くゴールデンコースだ。朝4時に起き、弁当を



半分食べ準備を整えて予定通り5時に出発する。夜明け前で薄暗く、ヘッドランプを点けて三俣蓮華岳を目指す。小屋の北側から、双六岳に向かって登る途中で日の出を迎えた。20分程登ると分岐に出て、左に進んですぐ右に中道ルートに登る予定だったが、うっかり右の巻道ルートを進んでしまった。今日は30分コースタイムが短くなるが、その分明日は30分余分に歩かねばならない。

巻道ルートと言っても結構アップダウンがあり、楽で



はないがお花畑の中を歩けるので楽しい。今年に残雪が少なく、小さな雪田がわずかに残っているだけだった。ヨツバシオガマ、ウサギギク、ミヤマキンポウゲ等の花を愛でながら軽快に歩き、途中の平らな場所で朝食を食べる。お花畑の真ん中でいただくお弁当は、とても美味しく格別の味がした。一旦下って小沢を渡り、ハイマツの間を緩やかに登ると三俣蓮華岳への分岐に出る。ここから岩がゴロゴロした登山道を下るとキャンプ場を抜け、三俣山荘



まで一気に登り詰める。山頂からは大展望が広がり、I 淵さんは「ウワ～凄い、今までこんなすごい景色が見られるなんて思ってもみなかったよ」と大興奮。これから登る水晶岳から薬師岳、黒部五郎岳、槍ヶ岳、穂高岳など、北アルプスの名だたる百名山の饗宴を楽しむ。

いつまで見ても見飽きない展望を楽しみながら、トマトや菓子を食べて至福のひと時を過ごす。最高の展望を楽しんだら、次の頂水晶岳を目指



預けて行く。これから登る鷲羽岳が大きく聳え、「これからあの山に登るんだよ」と言うと「え～～あんなに高い山へ登るの?」と驚いていた。荷物を預け、トイレを済ませたら出発する。Sさんが先頭で登り、ゆっくりと歩を進める。途中、鷲羽池の展望所で休憩し鷲羽池や槍ヶ岳の眺望を楽しむ。鷲羽池は噴火でできた火口湖で、北アルプスでは火口湖を持つ数少ない山である。

火口湖と槍ヶ岳の展望に元気をもらい、頂上



し出発する。ザレた尾根を下り、大きな岩をきわどく巻いて抜け、ワリモ岳も山頂を巻いて通過し、ワリモ岳北分岐に出る。分岐を右に進み、水晶岳を見ながら緩やかに登ると水晶小屋に着いた。このころから少しガスが出て、少し見通しが悪くなる。水晶小屋の前のベンチで昼食にし、ラーメンを作って食べる。ところがI川さんがラーメンは要らないと言うので我輩は2杯食べることになった。昼食を食べたら小屋を後にし、水晶岳の登り



にかかる。

最初は緩やかな尾根歩きだったが、一旦下って左側が切れた登山道を進みハシゴを登ると急峻な岩稜の登りとなる。山頂は狭く数人で満員御礼になってしまいが、先客が下山して空けてくれのんびりと眺望を楽しむことが出来た。ガスが掛かっていたが、時々晴れて大展望を楽しませてくれる。野口五郎岳や烏帽子岳、赤牛岳も見え大満足の山頂であった。山頂からは来た道を戻り、水晶小屋でトイレを借りて岩苔乗越まで下る。

岩苔乗越で小休止し、黒部源流に下るコースを降りて行く。

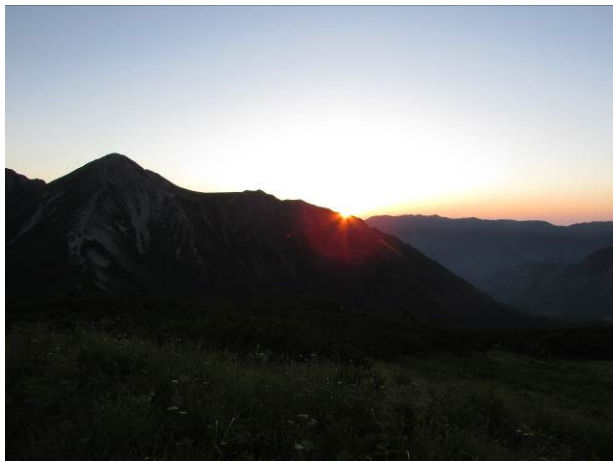
沢の右岸を下って行くが、沢の両側にお花畑が広がり素晴らしい。途中から左岸に渡りお花をかき分けながら進むと、黒部源流の標識があり最後の休憩をとる。ここから沢を渡渉し、三俣山荘に向かって登り、小沢に沿って緩やかに登るようになると小屋のアンテナが見え、ハイマツの間を抜けるとキャンプ場に出て三俣山荘に着いた。受付を済ませ部屋に案内されると、今日は混雑しており3枚の布団に5人で寝ることになる。さらに上の段なので出入りに苦労した。着替えをして荷物を整理し、すぐ寝られるように寝床を作ったら外に出て宴会を始める。



鷲羽岳や槍ヶ岳の絶景を見ながら飲むビールは格別で、今日登った山の話や明日向かう笠ヶ岳の話で盛り上がった。夕食はシカ肉を使ったジビエ料理のシチューを美味しくいただき、明日に備えて早めに床に就いた。

**8月6日(土) 三俣山荘から三俣蓮華岳に登り、双六小屋から弓折岳・抜戸岳を經由し笠ヶ岳へ**  
**三俣山荘 4:30～三俣蓮華岳 5:40～双六小屋 7:20/7:50～弓折分岐 9:00～秩父平 11:00/11:40～**  
**笠新道分岐 13:00～笠ヶ岳山荘 14:20/14:40～笠ヶ岳 15:00/15:10～笠ヶ岳山荘 15:30**

朝起きて外に出ると満天の星空、今日も素晴らしい展望が約束され嬉しくなる。洗面所わきのテー



ブルで弁当を半分食べ、荷物を纏めて外に出る。ストレッチを済ませ、ヘッドランプを点けて出発し昨日登らなかった三俣蓮華岳を目指す。キャンプ場を抜け、三俣蓮華岳の登りの中ごろで日の出を迎えた。鷲羽岳や槍ヶ岳をうっすらとピンク色に染め、なんとも贅沢な日の出ショーである。風が強く少し肌寒く感じたが、三俣蓮華岳山頂に着くと風はそれほど感じなくなっていた。山頂からの眺望は素晴らしく、鷲羽岳、水晶岳、野口五郎岳、槍ヶ岳と言った名峰の数々と、眼下に黒





面を下ると双六小屋に着いた。

小屋のベンチでスープを沸かして朝食を食べ、トイレを借りて出発する。双六小屋からテント場や双六池の脇を通り、弓折岳を目指す。一昨日通った稜線を鏡平への分岐まで下り、そのまま稜線に沿った道を辿れば弓折岳山頂に着く。山頂から大ノマ乗越まで一気に下り、大ノマ岳への急な登りになる。大ノマ岳への登りは長くて単調で辛い、左に

聳える槍ヶ岳から穂高岳の山並みが元気を与えてくれる。道は山頂直下を巻き、緩やかな下りとなり、これから向かう秩父平が見えるようになる。秩父平と呼ばれるカールの鞍部まで下り、少し登った所に水場がある。水を補給し、少し登った平坦な場所でランチタイムとする。ラーメンを作りパンと一緒に食べ、デザートに梨をいただく。ラーメンの塩分で疲れが回復し、カールの壁の急な登りを一気に稜線まで登る。登りが終わると快適な道になる。抜戸岳は山頂の西側を巻き、笠ヶ岳を眺めながら気持ちよく歩ける。やがて、笠新道の分岐となり、少し先で休憩を



とる。ここから先も、正面に笠ヶ岳を眺めながらアップダウンを繰り返す快適な登山道が続くが、疲れた足にはかなりきつい。さっきまで『笠ヶ岳が一番素晴らしいね』『私は笠ヶ岳が一番感動した』と賑やかだったI 渚さんも、下を向いて黙々と歩いていた。少し下って抜戸岩をくぐり、急な登りを頑張るとテント場に出る。テント場を抜け、大きな岩の登山道を頑張って登ると笠ヶ岳山荘に着く。受付を済ませ、部屋に

部源流、その向こうに雲の平、さらにその先に薬師岳と大パノラマが展開する。展望を堪能したら、中道をすすんで双六小屋に向かう。ここからの稜線歩きも素晴らしく、笠ヶ岳や槍ヶ岳を見ながらお花畑を歩くスカイライン。緩やかにアップダウンが続く稜線散歩を楽しみ、双六岳への道を右に分け左に双六小屋への道を降りて行く。巻道分岐に出て、そのまま急な斜



た所に水場がある。水を補給し、少し登った平坦な場所でランチタイムとする。ラーメンを作りパンと一緒に食べ、デザートに梨をいただく。ラーメンの塩分で疲れが回復し、カールの壁の急な登りを一気に稜線まで登る。登りが終わると快適な道になる。抜戸岳は山頂の西側を巻き、笠ヶ岳を眺めながら気持ちよく歩ける。やがて、笠新道の分岐となり、少し先で休憩を





案内されると先客の御夫婦が居て、山荘の方に布団4枚に5名で使用すると言われる。荷物の整理が済んだら山頂まで出かけることにする。靴を履き出かけようとしたら、我輩は急にお腹が痛くなりお手洗いへ行き、4人で山頂へ登ってもらうことにした。山頂はガスっていて、眺望は得られなかったようだが、あこがれの笠ヶ岳山頂に立て大満足のようなだった。帰ってきたらいつものよう宴会が始まった。ビールや酎ハイ等、好きなものを飲みながら、雲の間に見え隠れする槍ヶ岳を

楽しむ。Sさんは大好きなスイカを頬張り「甘くて美味しい」とご満悦の様子。風が冷たくなり、部屋に戻ると新しい宿泊客は無さそうである。結局、一人一枚の布団に寝られ、今宵はゆっくり寝られそうである。夕食の時間になり、食堂で夕食を食べ、お弁当を受け取って早めに床に就いた。

**8月7日(日) 笠ヶ岳山荘から笠新道を下り、新穂高温泉で車に乗り途中昔ばなしの郷「石動の湯」で温泉に浸かり、岩舟支所へ帰着**

笠ヶ岳山荘 4:00～杓子平 6:10/6:30～左俣林道 9:20/9:30～新穂高温泉 10:05/10:40＝昔ばなしの郷「石動の湯」11:00/12:30＝岩舟支所 P17:00

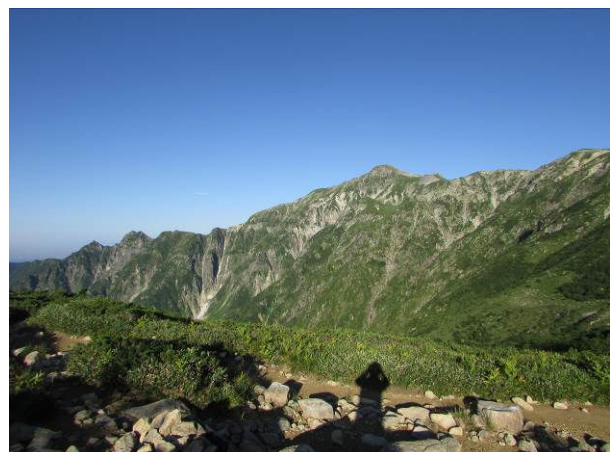
3時に起床し、弁当を半分食べ出発の準備をする。暗い中、ストレッチを済ませ、ヘッドランプを点



けて出発する。昨日登って来た道なので、暗い道でも迷うことはない。ゆっくり歩いたが、後ろでSさんが「早い、早い」と不満の様子。笠新道分岐で日の出を迎えられると思ったが、少し時間が掛かり間に合わなかった。ここから杓子平までは、カールの岩場についた道を下って行く。先頭はSさんに代り、岩に付いたペンキ印を忠実にたどって行くが、超ハイペースで降りて行く。二番手のI川さんが付いて行けず離され、三番手のI澁さんは「高速ペンギン歩き」で対応する

が追いつかない。

後から「ゆっくり降りて」と声を掛けるが聞く耳を持たない。杓子平まで降りると平坦な道になり、歩くペースが落ち着いた。杓子平はいかにもカールらしい明るく快適な道。お花畑の中の平坦な道を歩き、やがて杓子岳南稜に緩やかに登って行く。途中の平坦な場所で朝食をいただくことにする。ほうれん草とベーコンのスープを作り、弁当の残りをいただいた。朝日を受けた笠ヶ岳の絶景を眺めながら食べる朝食は、とても美味





しく感じた。杓子岳南稜を越えると、笠新道はいっきに急な下りとなる。初めのうちは灌木帯を下り、



日差しを受けとても暑かった。下りになるとSさんのペースが上がり、後ろからついて行く4人はとてもつらい。大汗をかきながら下り、樹林の日陰を見つけて休憩をとる。大きな木の下で2度目の休憩をとり、リンゴを剥いて食べたがとても美味しかった。やがて、ブナの樹林帯を下り切ると、水場がある笠新道登山口に着いた。1時間以上早く着き、大休止して手や顔を洗い水を補給する。ここからは、左俣林道を通り新穂高温泉に向かって緩やかに降りて行く。駐車場に着いて、車を探すがまだ着いて無い

ようだ。ビジターセンターまで歩き、トイレを済ませ迎えの車を待つ。

TELで連絡を取ると、11時30分下山予定なので、時間に合わせて向かっているとの事。

それでも10時過ぎには迎えの車が到着し、荷物を積んで出発する。車中でO嬢が用意してくれた、

冷たい飲み物や冷えたスイカで、渴いた喉を潤し大感激。福地温泉「むかし話の里」へ向かい、石動の湯に浸かる。ネットで見つけ、サービス券を印刷し持参すると、50円割り引いたほか五平餅を全員に無料で食べさせてくれる。温泉はシャワーなど無いが、昔ながらの木造の温泉で風情がありとても落ち着く。温泉から上がり、囲炉裏で焼く岩魚の塩焼きと生ビールは極上の味がし『生きてて良かった〜』と思えるほど旨かった。



無料の五平餅もバカ旨で、SさんとIさんは「旨い、旨い」ともう一本追加して食べていた。「むかし話の里」を後にし、岩舟支所に向かう。

途中、梓川SAに寄り、ご褒美のソフトクリームをいただき、お土産を買って帰路につく。

高速道路も大きな渋滞はなく、予定よりも早く岩舟支所に帰着出来た。